

# はらから

## 「終戦80年」

### 次の節目はいつ？

今年は、終戦あるいは戦後

「八〇年」の節目ということ、さまざまな行事や活動が行われました。来年は「八一年」。節目ではないと思う方もあると思いますが、いえいえとんでもありません。来年は、日本が米英に宣戦布告した一九四一年から数えて「八五年」の重い節目です。日本による大陸侵略の発端となった満州事変が起こった一九三一年から数えると「九五

年」の、これまた重い節目です。なぜ、「重い」か言うまでもありませんが、その結果が中国を中心とする多くのアジア諸国や太平洋諸島の人々に大きな被害を与え、また、日本の国民にも多大な犠牲を強いることになったからです。

「重さ」の訳はそれに留まり

〒五二〇〇四三

大津市中央一丁目二二二

電話 〇七七一五二二七六四六

住職携帯 〇九〇七七八七七一六四七

Eメール [eijunji1608@gmail.com](mailto:eijunji1608@gmail.com)

ホームページ



ツワブキの花が咲くと秋たけなわ

ません。なぜなら、加害者としての戦争責任を私たち自身が重く受け止め、当時の人々が戦争

遂行を阻止できなかった理由を私たち一人ひとりが、今、問わねばならないと思うからです。そして、それで得た知見をもつて現在の政治はもとより、社会

文化の動向についても注意を向け続けねばならないからです。その意味では、今年よりもむしろ来年こそ腹を据えて「八五年」「九五年」の節目を迎えねばなりません。

この重さは、戦争遂行に協力した浄土真宗を始め日本の仏教界も負わねばなりません。例えば、日中戦争が始まった時、判

明しているだけで五〇機以上の軍用機を仏教団体が軍部に献納しています。東本願寺は山門に、「皇威宣揚」「生死超脱」「挺身殉国」と三メートル四方に大

書して、掲示しました。

西本願寺は、ご門主の名前で次のような文書を発布しました。

国家の事変に際し進んで身命を鋒鏑(ほうてき)（敵地）におとし一死君国に殉ぜんは誠に義勇の極みというべし…

と戦意高揚に努めました。

これらはほんの一例ですが、これらのことが宗教界のみならず社会の隅々まで徹底されました。こうして日本は、文字通り挙国一致体制を作り上げアジア太平洋戦争へ突き進んでいきました。いったいどこに問題があったのでしょうか。

そのことをしっかりと捉え、その視点から今の日本社会、あるいは、我々の宗派の動向を見据えないといけないと思います。

来年のOHIGANのつどいは、このような視点を踏まえた法要にしたいと考えています。

## 除夜の鐘

夜九時～十時半まで

十二月三十一日除夜の鐘をつきます。ここ最近、近隣の方

を含めて百名以上の参拝です。どなたでもおつき頂けますので、お誘い併せてご参拝下さい。

丸屋町側、駐車場側どちらからでもお越しいただけます。

## 新年参拝の案内

お正月は随時参拝と致しております。ご家族皆様で随時本堂にお参り下さい。

元旦 午後一時～四時

二日 午前九時～正午

## 南無の会

十二月、一月はお休みさせていただきます。

だきます。

## ・親鸞聖人の生涯

⑩二月八日(日) 十四時～十六時

⑪三月一日(日) 十四時～十六時

## 春の彼岸会 OHIGAN(ひがん)

三月二十二日(日)の予定です。時間・内容も含めた正式案内は年明けにお送りします。

## 《その他の行事》

### ◇成道会

十二月九日(火) 一時～

場所…ピアザ淡海ホール(無料)

講師…真宗大谷派僧侶

KB S京都「心が笑顔になるラジオ」(土…朝8時)のDJ

川村妙慶氏

『生きがいの持てる人生』

～どん底から見える仏の智慧～

### ◇全戦没者追悼法要

#### 大津組研修会

二月七日(土) 十五時～十六時半

場所…浄宗寺(御幸町)

講師…願海寺(御幸町)住職

浄土宗平和協会理事長

廣瀬卓爾氏

### ◇真宗のつどい

二月二十二日(日) 受付十二時

主催…真宗教団連合

場所…能登川コミュニティホール

講師…田代俊孝氏(仁愛大学長)

講題…「悲しみからの仏教入門」

～いのちを考える～

◎右の諸行事に参加ご希望の方は  
お寺までご連絡下さい。

## フォトでほっと



お内陣のお飾りを下ろして一年一回のお磨き。ピカピカになりました。

## 報恩講に向けて みんなで準備

庭木の剪定のお手伝い。  
ほんとに助かります。なんと、  
市指定ゴミ袋(45ℓ)16袋に  
なりました。



## BOOK&DVD紹介

寺で揃えている本やDVDなどを  
ご紹介するコラムです。随時、掲載  
していきますので、お借りになりた  
い方はお寺までお申し出ください。  
ただし、直接お寺まで受け取りに来  
て頂ける方に限ります。\*冊あり。

## 仏事のABC ①

私たちの宗派名・本山は

今号から「仏事のABC」と  
題して、基本の「き」から、浄  
土真宗の仏事についてお話して  
いこうと思います。皆様からの  
疑問・質問も大歓迎ですので、  
よろしく願います。  
先ずは私たちの「宗派の名前」  
からいきましょう。これはまさ  
に基本中の「き」ですので、確  
かめるつもりでお読み下さい。

著者の鈴木章子さんは、北海道のお  
寺の坊主でした。四三歳の時に乳が  
んが見つかり、その後、肺に転移し  
四六歳で逝去されました。  
その間、病床でたくさんのお話を  
書きになり、死後、夫で住職の真吾  
さんが本にして出版されました。  
私もお話でよく引用させていただき  
ます。一篇ご紹介しておきます。

なんでもない

なんでもない

なんでもない

なんでもない

なんでもないことが  
こんなにうれしい

(検査の日)

## 浄土真宗 本願寺派

これが宗派名です。本山は

龍谷山 本願寺(西本願寺)

親しみを込めてお西さんとも

呼ばれます。「お西」と呼ばれ  
る理由は、京都の堀川通に本願  
寺派の本山があり、ここから  
みると東側の烏丸  
通に真宗大谷派  
(お東)の本山が  
あるからです。けっ  
こう単純な理由です。



本願寺派の紋章「下り藤」

因みに、浄土真宗には、本願

寺派以外に、(一)内は本山名、所在地

真宗大谷派(真宗本願寺・東本願寺・京都市)

真宗佛光寺派(佛光寺・京都市)

真宗高田派(専修寺・津市)

真宗木辺派(錦織寺・野洲市)

真宗興正寺派(興正寺・京都市)

他にも福井県内に本山がある  
四派があり、計十派が真宗教団  
連合という組織を作っています。

これら以外にも「浄土真宗」  
と自称する宗派や「親鸞」の名  
前を付けた教団がありますが、  
中には、カルト的な宗派もあり  
ます。名前を伏せて「数異抄講  
座」など伝道活動をしているこ  
ともありますのでご注意下さい。



## 親鸞聖人の生涯 ②

### ② 比叡山の親鸞(続き)

前回は、親鸞の誕生から得度までのお話でした。九歳の時、青蓮院で得度を受ける時、夜更けだったので日を改めようという僧に、

明日ありと思う心のあだ桜

夜半に嵐の吹かぬものかは  
という歌を詠み、その夜のうちに得度を済まされたとのこと。

わずか九歳でこのような歌を詠まれたというのはやや過ぎた話と思われるかもしれませんが、私も以前はそう思いました。しかし、前回で紹介したように親鸞の生家である日野家が漢文学や中国史の専門家である文章博士を輩出していること、官選和歌集の編集に関わった日野資業が親鸞の曾祖父であること、あるいは、後の著作(漢文、和讃など)の完成度の高さから推し量っても、幼少期から相当の歌の素養を身につけておられたことは推測できます。

また、母親を八歳で亡くしたことは、親鸞を感受性の高い人間にしたとも思われます。現代的な感覚で想像するのは控えた方がよいかもしれません。

### (2) 比叡山での修行

そのような親鸞でしたが、得度した後、しばらくして正式に受戒して比叡山延暦寺に登り、僧としての道を歩み始めました。

比叡山では、どこに住まわれたのでしょうか。ひ孫の覚如が書いた伝記である『御伝鈔』によると横川首楞厳院で天台の教義を学ばれたとあります。

横川は三塔(東塔、西塔、横川)の中で、最も奥まっついていて俗化を免れていた場所ともいわれています。また、日本浄土教の祖と仰がれる源信の住んでいた恵心院がありました。ここで聖人が修行を積まれたことは、後の聖人の思想形成に影響を与えたことは間違いありません。

比叡山の僧は学生と堂衆あるいは大衆に分かれていました。学生は皇族・貴族・武士の出身

であり、堂衆は農民や下人など低い身分の者でした。堂衆は修行をすることはできず、学生の世話をしたり、僧兵として武器をもって寺領や山を守る役を担っていました。

親鸞は学生としてはさほど高くない「堂僧」という身分でした。堂僧は、常行三昧堂でひたすら念仏し(「不断念仏」、学問に励み、時折は洛中で勤まる法要に出仕するという生活だったようです。こういう修行・生活を二十年間励まれたのでした。不断念仏の「仏」は、阿弥陀仏をさします。この修行は末法



西塔にある常行堂(本尊=阿弥陀如来)左と法華堂(本尊=普賢菩薩)「にない堂」とも呼ばれる。親鸞の頃には横川にも常行堂があった。

思想とともに広がりましたが、特段重要な修行というわけではありませんでした。従って、それを修める僧侶の地位もそれほど高くなかったようです。

### (3) 延暦寺の変遷と世俗化

前々号の復習を兼ねて、最澄以降の延暦寺の変遷をみておきましょう。その方が親鸞の山の修行や生活、延暦寺を去ることになる背景がわかりやすいと思います。

最澄は、朝廷から「天台宗」の開宗を正式に承認され、天台宗独自に僧侶を養成できる「大乘戒」も認められ、興福寺や東大寺という奈良仏教に対して新たな教団をつくつたのでした。

その後、円仁や円珍の活躍によって、延暦寺はますます隆盛を極め、了源の時代には焼失した諸堂が再建されたのでした。

しかし、円仁と円珍の系譜を引く両派の対立が表面化し始めました。円珍派は比叡山を降り、三井寺園城寺により(寺門派)、比叡山に残った円仁派は山門派

を形成し対立していました。

また、京の都に近いこともあり、貴族の子弟が出家して比叡山の僧になることが多くなり、そうになると、俗世間での出自によつて、僧の出世や地位が決まるようになり、比叡山の世俗化が益々進んでいきました。

親鸞が出家したのは、そのような時代でした。さほど高い身分ではなかったことで、却つて世俗的な競争に巻き込まれなかったと言えるかもしれません。比叡山の中心である東塔西塔から外れた横川に住んだのも、親鸞が自ら求めたとされていますが、ひよつとすると、そこに住まざるを得なかったのかもしれませんが。もしそうなら、親鸞という人物は、自分が置かれた逆境を順境に変換するたくましさを持っていたのかもしれませんが。順境に変換とは、浄土教との出会いということですよ。

#### (4)二つの「限界」

右のような延暦寺内の抗争や出世競争を尻目に、聖人は厳し

く戒律を守り、常行堂で常行三昧の修行に没頭されました。

阿弥陀仏の浄土への往生するために「一心」に修行を積まれたのでした。しかし、どれほど修行を積んでも、煩惱の心を沈めて「一心」になり切れない自分が明らかになるばかりでした。

その頃の聖人の心境を、存覚(覚如の長男)が『嘆徳文』という書物の中で、次のように語っています。

定水を凝らすといへども識浪しきりに動き、心月を観ずといへども妄雲なほ覆ふ。

《意訳(住職)》

心を、屈いだ湖面のように静めようとしても、様々な思いで心が波立つ。澄み切った満月を



頂法寺(六角堂)

思い浮かべようとしても、様々な妄念が心を雲のように覆う。

このような「一心」になれない自己に直面した親鸞は、自分の資質に「限界」があつてそうなれないと苦悩されたのでしよう。しかし、一方で、「自力」を頼りにする比叡山の修行そのものに「限界」があるのでないかとも悩まれたのではないかと思います。

なぜなら、すでに山を下りて専修念仏を説いていた法然聖人の噂が親鸞の耳に届いていないはずがないからです。法然聖人は、ただ念仏して阿弥陀仏に救われると説かれていました。これは「自力修行」の否定でした。

比叡山に留まつて「自力修行」の道が続けるか、比叡山を降りて、専修念仏の道を探ねるか。あるいは、私の資質能力の限界か、自力聖道門の限界か、この問題に葛藤されたのでした。

親鸞はその答えを求めて、六角堂に参籠することを決意された

のでした。二九歳の時でした。

#### (5)六角堂へ

六角堂は、京都の烏丸三条より一すじ南側の通りを東に入つたところにあります。

お堂の形が六角形であることからそう呼ばれますが、正式には頂法寺といひ、当時は、比叡山延暦寺の末寺でした。ですから、聖人は、山にいる時から六角堂のことはご存じだったはずです。聖人が尊敬される聖徳太子の創建によることが参籠の理由とも言われています。

「参籠」とは「お籠もり」とも呼ばれ、堂内にこもつて礼拝と読誦に専念することです。それを通して、仏様から何らかの指示(夢告など)を頂くことを期待したのです。聖人もきつと同じお気持ちだったでしょう。そうして九五日目の明け方、夢の中で救世観音菩薩から、これから歩むべき道を示唆する文を示されたのでした(夢告)。

それはどのような内容だったのでしょうか。それは次号のお楽しみに。